

6 - 1 中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動 (1984 年 7 月～1984 年 12 月)

Seismicity in the Eastern Chugoku, Northern Kinki and Hokuriku Districts, Southwest Japan (July, 1984 - December, 1984)

京都大学防災研究所 鳥取微小地震観測所

北陸微小地震観測所

京都大学理学部 阿武山地震観測所

Tottori Microearthquake Observatory and Hokuriku Microearthquake
Observatory, Disaster Prevention Research Institute
Abuyama Seismological Observatory, Faculty of Science, Kyoto University

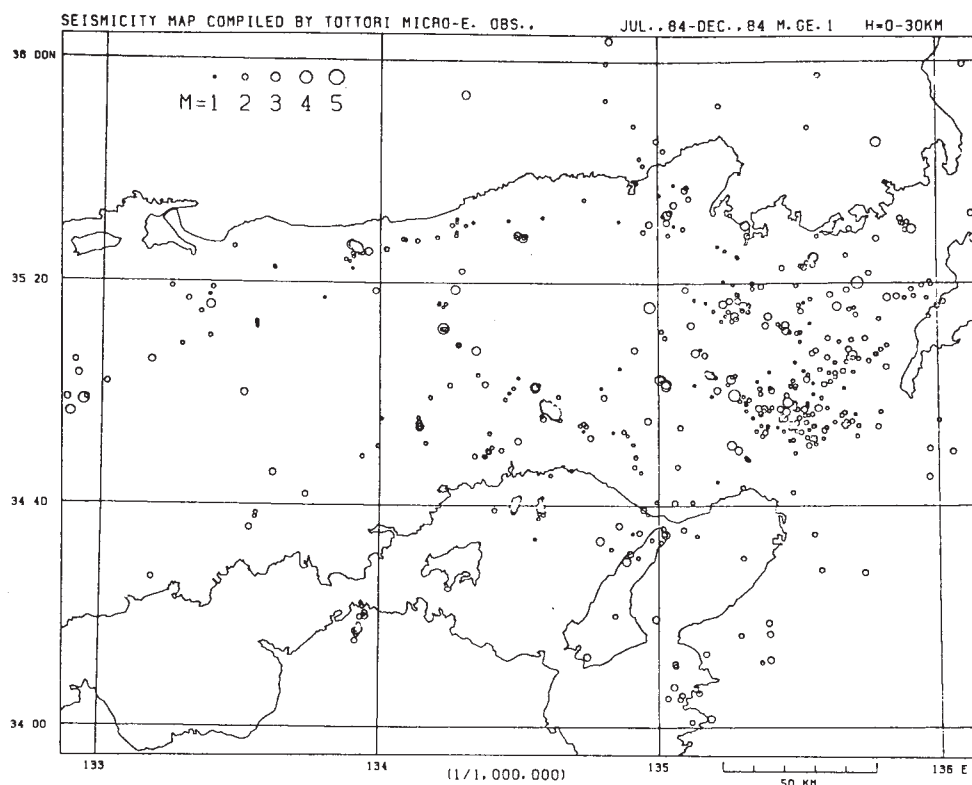
第 1 図に鳥取微小地震観測所の結果を示す。この期間では、1983 年 10 月 31 日の鳥取県中部の地震¹⁾と、1984 年 5 月 30 日の山崎断層の地震²⁾との、2 ヶ所の余震活動がなお見られる。山崎断層の特に北西半部は、この期間活発であり、この断層で前にも見られた地震活動の北西方向への移動を示す。

第 2 図に阿武山地震観測所の結果を示す。全体としては通常レベルのサイスミシティを示す。1984 年 5 月 5 日の天王山付近の地震³⁾の余震活動は、この期間の 9 月頃まで続き、その後減衰した。従来ほとんど地震が起こらなかった京都・福井府県境の美山町付近に、10 月 18 日 M3.1 の地震が起き余震は 12 月末まで続いた (図中の A)。またこの地震の南東方向に 12 月 2 日 M3.9 (B)、12 月 12 日 M2.5 (C) の地震が並んで発生した。

第 3 図に北陸微小地震観測所の結果を示す。地震の総数は通常の 1.5 倍であった。全体の傾向として M の割合大きいもの ($M \geq 3$) が目立った。福井地震断層に沿っては、線状配列が明瞭になったりぼやけたりするが、この期間は線状配列がかなり明瞭であった。また海中には、若狭湾から能登半島のつけ根まで、地震が海岸に沿って起こっているほか、M の凡例の 5 の部分にも 1 個の地震が起こっている。

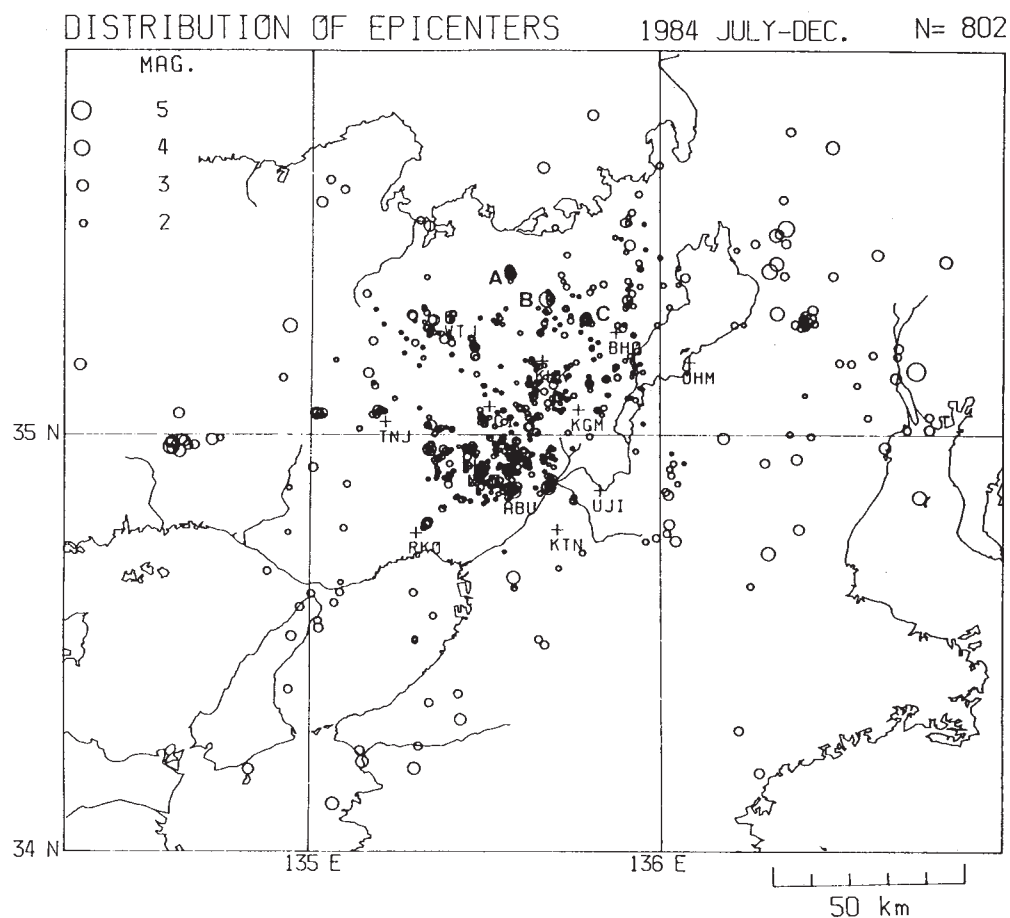
参 考 文 献

- 1) 京都大学防災研究所鳥取微小地震観測所・微小地震研究部門・鳥取大学地学教室：1983 年 10 月 31 日鳥取県中部の地震 (M6.2) について、連絡会報, **31** (1984), 390 - 398.
- 2) 山崎断層研究グループ：山崎断層の地震 (1984 年 5 月 30 日, M5.6) について、連絡会報, **33** (1985), 355 - 382.
- 3) 京都大学理学部・防災研究所：京都府南部の地震 (1984 年 5 月 5 日, M4.7) について、連絡会報, **32** (1984), 295 - 305.



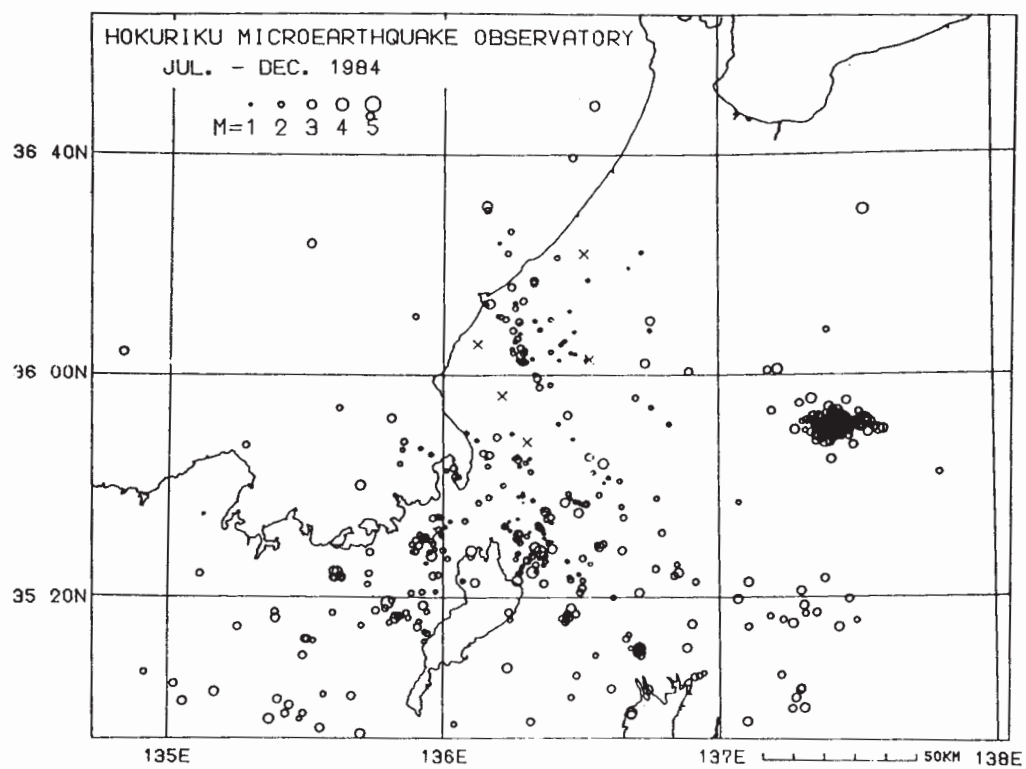
第1図 鳥取微小地震観測所による震央分布図 (1984年7月～1984年12月)

Fig. 1 Seismicity map by the Tottori Microearthquake Observatory (July, 1984 - Dec., 1984) .



第2図 阿武山地震観測所による震央分布図 (1984年7月～1984年12月)

Fig. 2 Seismicity map by the Abuyama Seismological Observatory (July, 1984 - Dec. 1984)



第3図 北陸微小地震観測所による震央分布図（1984年7月～1984年12月）

Fig. 3 Seismicity map by the Hokuriku Microearthquake Observatory (July, 1984 - Dec. 1984) .